

来た。財団主旨を理解いただき、4社の参加が決定した。

4 日本経済新聞社を 共同主催者に

財団構成員でもある日本経済新聞社と共同主催することになり、各種講演会、催し事の企画運営に参加した。

5 催し事

a 建設現場見学会と講演会

学識経験者、開発当事者等による橋本住宅祭の説明講演会と現場見学会を随時開催

b 実物写真アルバム及びパネル展示

モデル住宅街区14について6ツ切8枚の工程写真パネル展示

c 省エネルギー住宅説明パネル

住宅の省エネルギー対策を説明したパネルを展示する。

6 住宅祭準備委員会の設立

広報、展示分譲、工程分科会を編成し、出展12社の協力度体制をしいた。

7 和歌山県、橋本市等の後援が決定

地域のニーズをとり入れるべく、数度にわたり指導をいただいた。

8 事業概要

出展戸数 全187戸

名称 橋本林間田園都市住宅祭

会期 55年10月10日～10月19日（日）

まちなみ

美しい街並みづくりは財団住宅祭の重要なテーマのひとつですが、建設省の今年の「建設白書」は「魅力のある街づくり」を提言しています。これに関連して7月9日の読売新聞「編輯手帳」は電柱問題をとりあげ次のようにのべています。ご紹介いたします。

（前文略）

趣旨は結構。中でも興味深いのは見直し対象の一つに電柱をあげていることだ。電線が運ぶ電力と電話線が伝える通信は私たちの生活には不可欠だが、柱の存在がいささか目立ち過ぎることも事実



財団マーク制定

上掲のような財団マークが決まりました。丸の部分の赤は「東洋インキCF70」、その他の部分はスミ。デザインは山内暉氏。

だ◆ただでも狭い道路が電柱のために一層狭くなり、ポスターベタベタで見苦しく、クモの巣のような電線は息苦しい。景観問題だけでなく、台風や地震で断線すれば通行人感電の恐れがある。保守に当たる人々の感電、転落などの事故も毎年のように発生する◆そうして電力も電話も電柱や電柱がなければ送れないわけではない。要は電線を地下に埋めてしまえば済むことだ。欧米ではこの地中化が進んでいるから、事故は少なく、都市の姿はスッキリとする。日本でも場所によって地中化されているところがある◆例えば近ごろすっかり若者たちのメッカになった東京・原宿の表参道だ。ここが若者たちを引きつける理由はいろいろあるだろうが、その一つは、醜い電柱が見当たらず、その代わりにケヤキの大木の並木が道を行く人の気持ちを和ませてくれることだろう◆全国の電柱、電話柱の数はざっと千四百万本。国、府、県、市町村道七十層に一本の割で立っているという。一挙追放は到底不可能としても、せめて都市の目抜き通りくらいは地中化を図っていききたい。